

坐客、郭萱・柳成二秀才、每以氣相軋。柳

忽晒図、謂主人曰、「此画巧於體勢、失於意

趣。今欲為公設薄技、不施五色、令其精彩殊

勝如何。」冉驚曰、「素不知秀才芸如此。然

不仮五色、其理安在。」柳笑曰、「我当入彼

画中治之。」郭撫掌曰、「君欲給三尺童子

乎。」

(段成式『酉陽雜俎』による)

(注)

- 秀才——唐代、科挙の試験の合格をめざした知識人の通称。
- 以氣——負けん気で。
- 體勢——ものの形や構図など、絵の外見面。
- 意趣——絵の内面から感じられる趣き。
- 冉——冉従長。開州の軍将。郭萱・柳成の二人を食客としている。

問 傍線部A「不仮五色、其理安在。」とはどのような意味か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 手を加えるのに絵の具類を使わないなどという、そんな道理がいったいどこにあるというのですか。
- ② 青・黄・赤・白・黒の原色を用いないという、そういう理論も確かにあるうかと思いません。
- ③ 重要な五つの色をおろそかにしないのであれば、それこそが理想的で安定感をもたらすやり方です。
- ④ 色彩の効果にまったく頼らないと言うのなら、その理由を分かりやすく聞かせてください。
- ⑤ 五種類の彩色手法を借りずに描いて、どうしてその絵が理解されやすいものとなりましようか。

解答

有^リ客携^ハ柴^{（注1）}窯^{（注2）}片磁^{（注3）}索^{（注4）}数百金^{（注5）}云^フ「嵌^{（注6）}於^{（注7）}胄^{（注8）}」

臨^シ陣^{（注9）}可^シ以^テ辟^{（注10）}火器^{（注11）}。然^{（注12）}無^シ由^{（注13）}知^{（注14）}確^{（注15）}否^{（注16）}。余^{（注17）}曰^{（注18）}「何^{（注19）}不^{（注20）}下^{（注21）}」

繩^{（注22）}懸^{（注23）}此物^{（注24）}以^テ銃^{（注25）}發^{（注26）}鉛丸^{（注27）}擊^{（注28）}之^{（注29）}。如果^{（注30）}辟^{（注31）}火^{（注32）}必^{（注33）}不^{（注34）}レ

碎^{（注35）}。価^{（注36）}数^{（注37）}百^{（注38）}金^{（注39）}不^{（注40）}レ為^{（注41）}多^{（注42）}。如^{（注43）}碎^{（注44）}則^{（注45）}辟^{（注46）}火^{（注47）}之^{（注48）}說^{（注49）}不^{（注50）}レ確^{（注51）}。

理^{（注52）}不^{（注53）}レ能^{（注54）}索^{（注55）}価^{（注56）}数^{（注57）}百^{（注58）}金^{（注59）}也^{（注60）}。鬻^{（注61）}者^{（注62）}不^{（注63）}肯^{（注64）}曰^{（注65）}「公^{（注66）}於^{（注67）}賞^{（注68）}」

鑑^{（注69）}非^{（注70）}当^{（注71）}行^{（注72）}殊^{（注73）}殺^{（注74）}風^{（注75）}景^{（注76）}。急^{（注77）}懷^{（注78）}之^{（注79）}去^{（注80）}。後^{（注81）}聞^{（注82）}鬻^{（注83）}於^{（注84）}貴^{（注85）}家^{（注86）}。竟^{（注87）}得^{（注88）}中^{（注89）}百^{（注90）}金^{（注91）}。

（紀昀『閱微草堂筆記』による）

問

傍線部A「何不^{（注92）}下^{（注93）}繩懸^{（注94）}此物^{（注95）}、以^{（注96）}銃發^{（注97）}鉛丸^{（注98）}擊^{（注99）}之^{（注100）}」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① どうして胄を縄でつるし、銃弾で撃たないことがあろうか。
- ② どうして胄を縄でつるし、銃弾で撃たないのか。
- ③ どうして磁器の破片を縄でつるし、銃弾で撃たないのか。
- ④ どうして胄を縄でつるさずに、銃弾で撃つことができようか。
- ⑤ どうして磁器の破片を縄でつるさずに、銃弾で撃つことができようか。

（注）

- 1 柴窯——磁器の名品を産んだ古い窯の名。
- 2 辟——避ける。免れる。
- 3 当行——専門家。くろうと。

解 答